【体験授業】　野村総研のメタバース金融教育「資産運用キャンパス」へ！ 2003 年へのタイムスリップで学ぶ投資信託



野村総合研究所（NRI）が展開するメタバースを活用した金融教育プログラム「資産運用キャンパス」を、課題研究「ソーシャルビジネスと起業」の 3 年生 15 名の生徒が体験した。VR 空間に再現された教育プラットフォームに足を踏み入れると、そこにはこれまでにない没入型の学習体験が待っていた。

今回の授業の核となるテーマは「過去の歴史を追体験しながら学ぶ、投資信託の実践運用」である。

2003 年へタイムスリップ！投資信託の買い付けからスタート

アバターとなった生徒たちが案内されたのは、今から 20 年以上も前の「2003 年」。画面上のニュースや市場データは当時のものがリアルタイムのように提示され、タイムトラベルをしたかのような臨場感に包まれる。

生徒たちには仮想資金が与えられ、まずは分散投資を基本とする「株式型の投資信託」を購入することからワークがスタートした。

20 年間の歴史的出来事と相場の乱高下をリアルに追体験

ここから時代が一気に進み始める。受講者は 2008 年のリーマンショックや 2011 年の東日本大震災、2020 年のコロナショックなど、日本や世界を揺るがした社会的出来事をリアルタイムの出来事として直面していく。

大暴落のニュースが流れると、メタバース空間のモニターに映る資産価値は急降下。空間内には生徒たちの動揺が広がった。「暴落時に焦って売却してしまうと損失が確定する」「下落局面こそ継続的な積立が効く」といった講師の助言を受けながら、受講者たちは「持ち続けるか」「買い足すか」というリアルな判断を迫られた。ただグラフを見るだけの座学とは異なり、時代の波浪の中で「資産が減る恐怖」と「それにどう対処すべきか」を当事者として体感できるのが、このプログラム最大の特徴である。

「長期・積立・分散」の本質が腹落ちする体験価値

20 年間のタイムスリップを終えて現代へ戻ってくると、暴落を乗り越えて「長期保有」を続けた投資信託の資産は大きく成長していた。

この授業の本当の価値は、単なる投資のノウハウ習得にとどまらない。「世の中の出来事と、自分の生活や資産は深くつながっている」という真実に気づかされる点にある。

普段何気なく流し見してしまう政治や経済、社会のニュースも、投資という視点をもつことで一気に「自分事」へと変わる。「このニュースは自分の未来にどう影響するだろう？」　そう考え始めるきっかけを与えてくれると考えている。

日々流れる社会的なニュースに目をやり、世界で起きている出来事を他人事ではなく自分事として捉える意識を持つこと。それこそが、激動の時代をたくましく生き抜くために必要な、金融教育の真のねらいなのだと強く実感した。